
皆で超スピノフ！

春野キリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

皆で超スピンオフ！

【Nコード】

N4451T

【作者名】

春野キリ

【あらすじ】

『孤高なる者達』&『トリップでJump!』の番外編！ 『リメ天』のツカサ達も参加して大暴れ！！
キャラ崩壊？ そんなの当たり前だ！（『短編収録』とは別になります）

レクチャー1：自己紹介は大切（前書き）

つい、思いつきど……

レクチャー1：自己紹介は大切

翼乃「……また、変なのが始まった……」

静雄「超スピンオフって、なんだ？」

翼乃「番外編って思っていて」

始「頭が痛くなりそうだ」 青竜刀を手に

悟浄「刺すなよ？」

静雄「番外って、なにすんだよっ」

ユリハ「それはもちろん！」

ナルト「いろんなことを！」

アレン「ぶっ壊すんですよー!!」

翼乃・始・黒鋼・悟浄「……ぶっ壊すな!!」「……」

カナリア「『孤高なる者達』と『トリップでJump!』で語られ
なかつた話とか特別版とかやるのよっ」

静雄「あ？ 『短編収録』でやりやいいだろ??」

翼乃「いや。俺達の設定が違うから、別々にするらしくてよ」

始「『短編収録』だと、翼乃ちゃん達はまだ中学生だからなっ」

ツカサ「時々、ワタシ達（『天空学園』）も登場！」

黒鋼「……時々か？」

レクチャー1：自己紹介は大切

翼乃「とりあえず、まずは自己紹介からだ」

ツカサ「どっちからやるんだ？」

翼乃「『トリップでJump!』からだ。というわけで、ユリハ逝け」

悟浄「字が違うからなっ」

黒鋼「わざとかつ」

『トリップでJump!』

ユリハ「『星空』&『トリップでJump!』の主人公！ 全のエンジスト、ユリハだっちゃ！」

ナルト「『NARUTO』主人公で、『トリップでJump!』準主人公、うずまきナルトだつてばよー！」

アレン「『D・Gray-man』主人公で、同じく『トリップでJump!』準主人公の、アレン・ウオーカーです」

ユリハ「この作品は、ウェイアードに突如現れた“時空の穴”からナルト君とアレン君が落ちてくるという……いわゆる、逆トリップ！」

翼乃「まだ、進んでないのになっ」

アレン「まあ、そうですね」

ツカサ「てか、ユリハ自重」

ユリハ「てーん」

ツカサ「こらあああああー！」

悟浄「オリジナル二次に二次キャラが行くつての、ここだと初めてだよな？」

静雄「ブログはしらねえが」

カナリア「知らぬが仏って知ってる、静雄？」

始「特別出演として、ツカサちゃん達『天空学園』が出てくる」
ツカサ「派手に行くぜ！」

黒鋼「お前も自重しとけ」

『孤高なる者達』

翼乃「『四神伝』主人公で、『孤高なる者達』では火炎サイド主人公の神翼乃だ。『孤高なる者達』設定で、高校1年だ」

始「『創竜伝』主人公の一人で、『孤高なる者達』火炎サイド準主人公の竜堂始だ」

黒鋼「『ツバサ』シリーズ、『孤高なる者達』火炎サイド準主人公、黒鋼」

悟浄「『最遊記』シリーズ出演で、『孤高なる者達』火炎サイド準主人公の、沙悟浄な」

静雄「あー。『デュラララ』出演、『孤高なる者達』火炎サイドじゃあ、準主人公の平和島静雄だ」

カナリア「『孤高なる者達』で、『フォレストパレス』のアンバーの、ヒロインのカナリアよ！」

黒鋼「ヒロインじゃねえだろ」
カナリア「いいでしょ！」

翼乃「舞台は『フィルゼパス』という世界で、カナリア以外の五人が『フォレストパレス』に落ちてきた所から始まったな」
悟浄「ま、そこがスタートラインだしっ」

始「フィルゼパスの各世界に、“アンバー”という守り人がおり、“アンバーカード”というカードが存在する」

翼乃「だが、“ゼルク”という謎の敵に支配されてしまい、ゼルクの王がゲームをやり始めて、俺達はフィルゼパスにやってきてしまっただ」

黒鋼「火炎サイドは、翼乃をマスター、俺達はプレイヤーとした話になる」

静雄「進んではないぞ」

カナリア「言っちゃ駄目!!!」

ツカサ「なあ、ワタシも言っただいかな？」

翼乃「いいぞ」

ツカサ「『天空学園』主人公、全のエンジストで2年A組リーダーのツカサだ！ 時々後書きに次回予告をするみたいだが、違うのをやるかもしれないから気にするな！」

全員「……………気にするわ!!!……………」

ツカサ「ちなみに、次からワタシ以外のメンバーも出るからな」
ユリハ「グレン達も出るよー」
翼乃「他のサイドも出るな。俺達と交代とかで」

レクチャー1：自己紹介は大切（後書き）

次回予告（?）

グレン「マスターで、プレイヤーって違うよな」

ユリハ「そういえば。フォレストパレスに落ちてくる前って、何してたの？」

ツカサ「おもっ!?!?」

翼乃「コートの中は未知数」

始「何を入れているんだっ」

静雄「確か……ノミ蟲を追いかけていたっけか」

アレン「……一応、CPたってますよね？」

臨也「シズちゃん、酷いっ」

黒鋼「原作でも言われてるだろっ」

レクチャー2：落ちる前は何してた？（火炎サイド編）

レクチャー2：落ちる前は何してた？（火炎サイド編）

カナリア「ねえ、悟浄……ちょっと、前髪切らせて？」 手に短剣
悟浄「まだ出てないからって、やつ当たりすんな！」 髪を押さえ
ながら

アレン「僕とナルトは出ましたけど（笑）」
ナルト「アレン、黒いってばよ」
タケル「とりあえず、武器をしまえっ！！」

翼乃「いいよな、壱鬼さんは」

壱鬼「……いきなりどうした」

翼乃「だってそっち、綺麗な人ばかりじゃん。こっち、むさ苦しい
し」

黒鋼「おいっ」

始「殴っていいか？」 青竜刀装備

静雄「それは斬るだろ？」

壱鬼「……確かに綺麗だが、それは外見だけだ！ 中身は我侂と毒
舌が多く入ってるんだぞ！！」

八戒「すみません、誰か武器を貸してくれませんか？ 僕、持って
いないので」

続「僕のでよければ」 弓を見せる

臨也「ナイフでいいんじゃない？」 ナイフを見せる

ファイ「シユネちゃんは見ちゃ駄目だよ」

シユネ「ニユー？」 目隠しされる

グレン「マスターで、プレイヤーって違うよな」
ユリハ「そういえば。フォレストパレスに落ちてくる前って、何してたの？」

レクチャー2：落ちてくる前に何してた？（火炎サイド編）

ツカサ「確かにそうだよな。一話と二話は警戒態勢状態だったが」
静雄「俺はどうなるんだ？」 二話の最後に翼乃に投げられた
翼乃「大丈夫。次の話、シズちゃんは戦わないから」
悟浄「そこじゃないっ！」 錫杖で防御
カナリア「やあ！」 短剣で攻撃
タケル「グロウ！」 カナリアの動きを止める
始「少しはさすが、俺も戦わない。翼乃ちゃんは支援だけ」
黒鋼「少しでもなんでもねえだろうが！」

アレン「でまあ、五人は何をしていたのですか？」
翼乃「俺は本編で少し触れたぞ」
ユリハ「えっと。コートを取りに行っていたんだっけ？」

吉鬼「なんで忘れて帰ってきたんだよっ」

翼乃「あいつの両隣が騒がしくて、忘れてしまった」

大樹「俺のせいにするなっ！」 翼乃のコートを投げる

翼乃「おっと」 受け取る

翔太郎「ま、大樹の隣があなの『蝶花姫』さんらだからなっ」

大樹「だってっも、重かった！」

ツカサ「そんなに重いのかよ？」

翼乃「持ってみるか？」

ツカサ「ああ」

翼乃「ほらよ」 コートを渡す

ツカサ「おもっ!？」

翼乃「コートの中は未知数」

始「何を入れているんだっ」

翼乃「コートの中は未知数」

丈留「ある意味、最強装備の一つだな」

タケル「はいいいっ!？」

吉鬼「まあ、俺等は重さなんて関係ないからな」

グレン「それ、あり？」

翔太郎「ありだな。現にほら」

翼乃「よっと」 片手でピアノ+乗っているユリ八を持ち上げる
ユリ八「てーん」

大樹「アレを見てみると、本当に女なのかって考えてしまっよな…」

文留「そうだな」

アレン「ていうか、何しているのですかユリハ!？」

ナルト「ユリハだけずるいってばよ!」

ツカサ「こらああああああっ!」

静雄「あれくれえ、普通に出来るだろ」

黒鋼・悟浄「一緒にすんな!!」

始「……」 翼乃と似ているため何も言えない

グレン「で次に、始さんになるんだけどよ」

始「俺は家に籠っていると身体がなまってしまっから、少し外に出たな」

ユリハ「籠もる?」

翼乃「合っではいるが、字が違う」 ハリセンで叩く
ツカサ「ああ、退職したんだっけ?」

始「正確には、させられてしまったんだが」

グレン「とりあえず、どこにいたんだ?」

始「確か……池袋あたりだったか」

静雄「あ?」

ナルト「どうしたんだってば?」

静雄「俺も池袋にいたぞ」

始「そうなのか」

静雄「確か……ノミ蟲を追いかけていたっけか」

アレン「……一応、CPたってますよね?」

臨也「シズちゃん、ひどいつ」

黒鋼「原作でも言われてるだろっ」

翼乃「そこは触れないでおこうか、クロ」

黒鋼「中途半端に呼ぶんじゃねえ！」

始「そういえば池袋にいた時、騒いでいた気が……」

吉鬼「悪運だなっ」

続「一話の後書きを見て下さいっ」

始・静雄「……は？」 同じ世界にいる事を知った

八戒「臨也さんは知ってましたか？」

臨也「まあね　でも、存在は知っているけど会うのは初めてだったから」

続「そうですね。初対面だというのに、名前を呼ばれましたし」

シユネ「すごいニュー」

吉鬼「褒めるな、シユネツ」

カナリア「邪魔しないでよー！」　タケルに短剣を向ける

タケル「ギヤアアアアアッ！！」

ユリハ「じゃあ、クロさんと悟浄さんは？」

黒鋼「だから中途半端に呼ぶんじゃねえっ！」

悟浄「俺らつて、あれじゃね？ 旅している最中」

グレン「そっぴやそっぴやだよな」

悟浄「でも、いいぜ。砂漠からいきなり森の中っていうのも」

八戒「僕たちは、雪の中ですけどねえ」

シユネ「雪は綺麗ニユー」

ファイ「そっぴだよね」

臨也「……吉鬼君」

吉鬼「翼乃がいるからこれな」ピコパンを渡す

アレン「本人がいる前でやるのは、どうかと思いますよ？」

翼乃「（笑）」 弧鉄（氷玉） 装備

続「はあ……」

カナリア「でもあれね。五人とも、人がいる場所から来たのね」

タケル「」 切り刻まれた

ナルト「怖いつてばよ……」

翼乃「あー、よしよし。大丈夫だからな」 撫でる

レクチャー3：爆走全のエネルギー

翼乃「……」

ユリハ「ドビダノ？」

黒鋼「“どうしたの？”と書いてえのかっ

ユリハ「ウエイ！」

アレン「オンドウル語はやめて下さいっ」

静雄・ユリハ・ナルト「「ウエイ！」」「

悟浄「増えたあああああ！？」

始「そして、うざい（黒）」 青竜刀を手に

カナリア「落ち着いて、始！」

翼乃「 業火・爆炎波」

レクチャー3：爆走全のエネルギー

翼乃「今週のデジクロとバトスピがなくて、どうしようもなくムカついてた」

グレン「ああ、そういやないんだっただなっ」 いなかったので無傷
黒鋼・悟浄「だからって、八つ当たりすんじゃないわねえ!!」 火傷
ユリハ「ぶわあー」 全身火に包まれている状態

アレン・ナルト「ユリハ!？」 軽い火傷

始「あれで生きているとはっ」 青い鱗が所々に見えている状態

グレン「うおおおおお!!」 ユリハに向かって走る

カナリア「消してあげてー!!」 軽い火傷

静雄「けどよお。日朝のが、全部ないとするのだ」 火傷

翼乃「ああ……シズチャンが思っているとおりだよ」

ツカサ「おのれえええええ! 日朝の敵めえええええっ!!」

武器を振り回している

タケル「姉御が壊れたあああああっ!？」

翼乃「違うな。ゴーカイジャーと000がないから、怒ってるんだ」

アレン「ああ。合同でしたね、『天空学園』とっ」

ナルト「日朝の敵って?」

翼乃「ゴルフや野球、マラソンの事だ」

静雄「ああ、確かにそれらで潰れちまうよな」

ツカサ「バイオレントクール！ テンペストスピン！！」

黒鋼・悟浄「何してんだ！？」

ユリハ「爆走してるんだよ！」

始「爆走じゃなくて、暴走だっ」

ツカサ「ハーデスブレイズ！」

翼乃「黙れ」 キック

ツカサ「グハッ！！」 直撃

タケル「蹴りで止めたあああああっ！！！？」

翼乃「お前も蹴るぞ？」

タケル「すみません！！」 土下座

翼乃「こういう時にはな、アレが必要なんだ。アレが」
グレン「アレってなんだ？」

翼乃「生贄じゃ！ 生贄を用意するんじゃないかあ！！」

アレン「何言ってるんですかあああああ！！？」

〵〵〵

ナルト「連れて来たつてばよ！」

ガレル「何だ、これはあああああ！？」 縄で拘束

タケル「？確かに生贄にはピッタリだけど！？」

ガレル「生贄?!」

ツカサ「ガルルルツ！」 野生化+縛りつけ

ガレル「ツカサ!?!」

静雄「おう。連れて来るまでに野生に戻ったぞ」

ガレル「何があつたあああああつ！」

グレン「聞くな！」

カナリア「何も聞かないで、生贄になって！」

ガレル「ふざけるなあああああつ!?!」

始「黙れ」 ガレルを蹴る

翼乃「よつと」 ツカサの拘束を解く

ツカサ「ガウツ!?!」

ガレル「ギヤアアアアアア!?!」 ツカサに連れて行かれる

悟浄「……嵐が去ったなっ」

アレン「ええ。ガレルさんには悪い事をしましたがつ」

翼乃「時に、犠牲は付き物だ」

黒鋼「てめえがしたんだろうが！」

翼乃「ガレルを突き出したのは、始さんだ」

悟浄「ツカサちゃんの縄を解いただろっ」

タケル「姉御がいくら全のエナジストだからって」

ナルト「そういえば、ユリハはどうしたってば？」

ユリハ「シャーッ！」 野生化

全員「……エエエエエエッ!?」「」「」

グレン「ユリハ!？」

翼乃「ツカサのがうつったのかっ」

ユリハ「シャー！ シャー！」 走り回る

アレン「……けど、殺意がありませんねっ」

悟浄「ただの遊んでいるだけっ」

黒鋼「元が元だからなっ」

ユリハ「シャー！」

通りすがりのキバット？世『ギャアアアア！』 追われている

アレン「？キバット！？」

タケル「食べる事だけはそのままでったあああああつ！」

ナルト「ユリハ、元気だつてばよ」

グレン「違うだろ……っは、まさか！」

翼乃「そのまさかだ」

始「生贄、逃げ（黒笑）」 グレンを蹴り飛ばす

黒鋼・悟浄・カナリア「っ始え っ！！？」

グレン「ガッ！」

ユリハ「キャッ！？」 ぶつかる

静雄「始、こえー」

）））

ナルト「キバット、大丈夫ってば？」

キバット？世『ああつ。遅かったら、今頃ユリハの胃の中だったぜ……っ！』

アレン「グレンが犠牲になってよかったですよ、はい」
タケル「何気にひどっ!？」

翼乃「犠牲は付き物」 写真を撮る

始「犠牲は最小限に」 写真を撮る

黒鋼・悟浄「てめえらが言っな!!」

静雄「何撮ってんだ？」

ユリハ「んっ……!」

グレン「いってえ……うわっ!？」

アレン「キバット、状況を」

キバット？世『えーと。ただいま二人は倒れている状態で、グレンがユリハの胸を触っている模様』

グレン「ギャー! これ、事故! 蹴られたからな!!」

ユリハ「えっ、なんで押し倒されてるの!？」

ナルト「覚えてないっば？」

カナリア「覚えてなくていいわよ……」

翼乃「待てよ。ユリハが記憶がなくなっているという事は、ツカサも覚えてないかもな？」

静雄「そうなるな」

始「……哀れだな」

黒鋼・悟浄「誰のせいだと思ってやがるんだアアアアアア!!」

！
「」

ユリハ「グレン、早くどいてよっ（ノノノ）」

グレン「あ、わりい……結構、柔くなっただな？」

ユリハ「うっ……（ノノノ）」

アレン「……キバット」

キバット「世『オーケー……』」

ナルト「いつもってばよ？」

カナリア・タケル「そうじゃないからっ」「」

レクチャー3：爆走全のエンジスト（後書き）

「オマケページ」

カナリア「確か始つて、常識人よね？」

悟浄「なんで黒属にっ」

静雄「翼乃に当てられたからだろ？」

翼乃「俺は黒属じゃない」

黒鋼「嘘をつくんじゃないぞ！ 超黒属の裏の頂点とか言われているくせして！！」

翼乃「俺は超黒属じゃない」

始「俺は黒くないぞ？（黒笑）」

黒鋼・悟浄・カナリア「」「黒いつ！！」

レクチャー4：雪ってカキ氷にして食べない？

ツカサ「あちいっ」

悟浄「そついや夏だっけか、今は」

アレン「長袖を着ている人たちには、耐え難い事ですっ（汗）」

ユリハ「だらっ」 汗だく（異常なまでに）

ナルト「汗が出てるってばよ」

カナリア「ていうか出し過ぎよ!？」

翼乃「……そんなに暑いかな?」 体温が異常な人

ツカサ・悟浄「暑いわっ!!!」

静雄「んなにあちいなら、つめてーもんでも食べばいいだろ」 子

ヨコパフェを食いながら

ツカサ「あんたが言うなああああああ!!!」

レクチャー4：雪ってカキ氷にして食べない？

アレン「そついえば、いつものメンバーが見当たりませんが?」
翼乃「ク口は素振りをするから静かな場所に行ってる」


~~~~~

タケル「いきなり弟の腕切るなよ、姉御!？」 翼乃に腕を戻してくれた

ツカサ「だってあれだろ。腕がなくなったら引つ張られずにすむだろ？」

タケル「だからって、マジで切るかよ!？」

静雄「足でもいいんじゃないかねえのか？」

タケル「いやだあああああああああ!！」

グレン「……なあ。怪談話でもよくないか？ ある意味寒くなるし

よ」連れて来られた

翼乃「いや、それは別でやるらしい」

悟浄「やるのかよっ」

カナリア「早く氷を出してよ!！」

グレン「とはいってもよ。氷を作るのってな……すっげえ力いるんだぞ!？」

ツカサ「あー、確かにいるよな。前に作るうとしたら、原型すら出来なかった」

タケル「一応出来ますが……長時間は無理ですっ」

ユリハ「出来たけど、放した瞬間に溶けちゃった……」

翼乃「全部のエネルギーを使えたとしても、何かしら傾きがあるからな」

グレン「気にすんな、ユリハ」 撫でる

ユリハ「（コクリ）うん／＼／」

ツカサ「なあ、弟よ……………あのヴァカップル、殺していいか？（

黒笑）」 オルタリング出現

タケル「ガレルさん、どこ　っ!？」

カナリア「バカップルじゃなくて、ヴァカップルッ」

~~~~~

翼乃「グレン、氷を出せ」

グレン「人に物を頼む態度かよ!? てか、お前も出せるだろ!」

翼乃「俺は　火炎を主にしているからな。それに出来るにしても、一番上手いのはジュンと水奈姉さん（『孤高』では女）か千ーさん

ぐらいだ」

グレン「……そうかよっ」

アレン「早くして下さいよっ」

グレン「あのなあ」

ユリハ「グレン、お願い」 上目使い

グレン「すぐに出してやるからな」

ツカサ「死・ね (黒笑)」

ガレル「ストップ、ツカサ！ ストオオオオオオストップ！！」 タケ
ルに連れて来られた

ナルト「暑いつてばよっ……」 倒れる

悟浄・カナリア「早く氷をおおおおおお！」

静雄「あっちな」 団扇を仰ぎながら

グレン「ほらよ」 超特大の氷を作った

翼乃「……すごい、エナジーの無駄使い」

悟浄「お前が言うなっ」

ユリハ「涼しい〜」

カナリア「ほら、氷が出来たわよ」

ナルト「ふへ〜」

アレン「涼しいですねー」

タケル「もういつそのこと、氷の中に入りたい……」

ガレル「おい、暑さで頭がいかれてるぞ!？」

ツカサ「首ちよん切るぞ? (黒笑)」 ソルブレードを手に

タケル「サーセンでしたあああああああ!！」

静雄「始がいねえから、あいつが黒くなってるな」

悟浄・カナリア「最悪だあああああああ!！」

〜

静雄「なあ」

翼乃「どうしたの、シズちゃん」 氷が溶けると言われたので少し
離れている

静雄「氷が作れるならよお………雪も出来るんじゃないかねえのか?」

エナジスト「……? いやいやいや!」「」「」
ナルト「出来ないってば?」 額に氷を乗せている
グレン「つか、やった事ないしっ」
ユリハ「イルミ村に行ったら、雪あるよ!」
アレン「そうじゃないと思いますよ!?!」
タケル「雪を作るのは、高度なことですよっ」
ツカサ「作るうとしたら雪じゃなくて、水の塊が出来たぞっ」

カナリア「……それでもいいんじゃない?」
翼乃「いや。それだと、雷か霞だぞ」
悟浄「いてーしよっ」

ウォル「どうしたのですか」 通りすがり
ユリハ「あ、ウォル」
アレン「実は(ゴニョゴニョ)という事で」
ウォル「そうですか……」
ガレル「氷は出来ても、雪はさすがに無理だろっ」

ウォル「いえ、出来ますよ」
全員「……マジで!?!」「」「」
カナリア「どうやるのよ!」

ウォル「『短編収録』の使った雪製造マシンを持ってくればいいんですよ」

タケル「ダメエエエエエエエエエエ！　ここ、『短編収録』入ってませんか！！」

ガレル「つか、その所為で大変な目にあっただらろうが！！」

『短編収録』の『カブトムシがラケットを持っていいのか』を
ご覧下さい

アレン「却下ですよ！」

ウォル「そうですか？　いいと思ったんですけど」

グレン「あのなっ」

静雄「おらよ」 標識で氷を削っている

ナルト「すごいってばよ！」

ユリハ「キーン」 削った氷を集め、イチゴシロップをかけて食べている

悟浄・タケル・ガレル・アレン「……何してんだあああああああああ！？」

静雄「みりゃあ、分かるだろ」

カナリア「分からないから聞いているのよ！ なんで削ってるのよ！？」

静雄「あー。こいつらが冷たい物が食べたいって言うてきたから」

翼乃「それで氷を削って、カキ氷と」

ウォル「（ポン）その手がありましたね」

グレン「あるかあああああああ！！」

ガレル「てか、標識で削ってんじゃねえよ！」

ナルト「削る物がなかったてばよー」

ツカサ「いや、あつたはずだろっ!？」

ユリハ「ガブガブ」 刃物を食べている

静雄「全部あいつが食った」
ナルト以外「「「「「止めるオオオオオオオオオオオオ!!!」」」」」

レクチャー4：雪ってカキ氷にして食べない？（後書き）

次回予告（？）

ツカサ「忘れていたが。『天空学園』リメイク開始を記念して、運動会を開催するぜエエエエツト！」

タケル「ただし、おれらは出ないけどなっ」

全員「…………ふざけんなアアアアアアアッ！！」

K（黒鋼）天鬼「うおおおおお！！」

G（悟浄）ファム「ああああああ！！」

カナリア「二人とも、戻ってきて　！！！！」

翼乃「…………」

静雄「なんでだ？」

始「チッ」

黒鋼・悟浄「出られないからって、舌打ちするな！」

ユリハ「カゾクツテナニ？　オイシイノ??」

サスケ「なわけあるかああああ！！」

レクチャー5：主役のいない運動会／火炎サイド暴走

アレン「綱引き…………ですかっ」

アレス「負けるだろっ」

始「ん？（黒笑）」

黒鋼・悟浄・カナリア「「「笑うな！」」」

質・翼乃をどう思ってますか？

悟浄「髪と目の色が紅とか」

翼乃「別にいいんじゃない？」

静雄「あー、面白い奴？」

翼乃「シズちゃんが分からないっ」

黒鋼「食えない奴」

翼乃「そうか？」

始「前世が朱雀」

翼乃「始さんは、青龍王」

カナリア「かつこいいわよ！」

翼乃「やめてっ」

メルス「心に傷をおっている、かねえ」

翼乃「……」

ラーフォルス「幽霊が見える」

翼乃「幽霊には言われたくない」

黒子「運動センスが凄い、ですね」

翼乃「ありがとうなっ」 撫でる

火神「頭が良い」

翼乃「お前よりはいいぞ？」

ミティーシア「やさ、しい？」

翼乃「なぜ疑問形っ」

デクトラス「綺麗だよな。まあ、俺の理歌には及ばないが
理歌「誰があんたのよ！」　リボンで締める

翼乃「大変だな」

義成「翼乃隊長は、他人からの信頼が高いな」

綱海「結構凄いやな、ベストフレンド！」

翼乃「ベストフレンドと言うな！」

翼乃「続きは、中編の前書きへ。本編スタート！」

レクチャー5：主役のいない運動会／火炎サイド暴走 前編

ツカサ「忘れていたが。『天空学園』リメイク開始を記念して、運動会を開催するゼエエエエツト！」

タケル「ただし、おれらは出ないけどなっ」

全員「……ふざけんなアアアアアアアッ！！」「」「」

レクチャー5：主役のいない運動会／火炎サイド暴走 前編

アレス「なんで出ないんだっ!?!」

火神「お前等、主役だろ！」

ガレル「まあ、そうだけだよっ」

イレス「見ている方が面白いと、ツカサ以下多数が言ってきました……」

悟浄「やめてくれよなっ」

翼乃「俺達がスポーツがあるからってよ？（黒）」

始「ふざけるな（黒笑）」

カナリア「落ち着いて、翼乃！」

黒鋼「おい、始は!?!」

メルス「私は遠慮しておこうかのう」
ラーフォルス「んじゃ、俺も」
静雄「てめえは死んでるだろうが」

〜

ワイズマン「さあ、始めました！ 二作品対抗の大運動会！！」
鳴滝「司会進行と解説は、我々がする事になった！」

ユリハ「あの岩、砕く」 メリケンサック装備
翼乃「ナルウオーター、殺す（黒）」 マシンガン装備
ラビ「？やめるさ！？」

鳴滝「『孤高』チームは、火炎サイドだけに出てきたメンバー。
『トリップ』チームは、ハイディア戦士に加え、神田・リナリー・ラ

ビ・サスケ・サクラ・サイの6人追加だ！」

火炎初期メンバー「「「「「ざけんな！」「」「」」」」」

ガイア「いいじゃん、そっち人数が多いんだしょ」

翔太郎「ああ、確かに多いけどよ！」

丈留「そっちには、エナジストにエクソシストに忍がいる！」

ワイズマン「ちなみに全競技、スーパーヒーローに変身する事になっ
っている」

ユリハ「やったー！」

サスケ「喜ぶなっ！」

翼乃「ツカサ。お前、出ない理由はこれだな？」

ツカサ「〜」口笛

黒子「どういう事ですか？」

翼乃「変身するにも、それぞれ条件がある。ツカサが主になるのは、
仮面ライダーアギト。アギトになるとあいつはエナジーを使えない
んだ！」

汐子「何かと規制がありますわね」

今回、規制なしの変身になります

~~~~~

ワイズマン『第1競技は、200m走!』  
鳴滝「各チーム、三試合×二人ずつ。変身はランダムで行う」

杜奈「どうするわけ、隊長？」

翼乃「……俺が出ると何かありそうだから、出ないが。とりあえず、速さを上げる義成と足の速い始さんは出す」

義成「マツハライン（風の魔法）か。了解した」

始「……」 指を鳴らす

翼乃「変身がランダムで決まるからなあ。残りの四人は、クロ・悟  
浄・汐子、そして日向さんで」

日向「なんでだ!？」

翼乃「俺に質問するな!」

大樹「おiiiiiiiiiiiiiiii!」

メトナ「誰が出るの？」

ユリハ・アレン・ナルト「「はい!」」

アレス「……なぜだ？」

ユリハ「へシン!」

アレン「相手をボコボコにしたいので（黒笑）」  
ナルト「影分身でゴールつてばよ！」

ジェラルド「ユリハだけ出てよし!!！」

アレン・ナルト「えーっ!!！」

アレス「てめえらは、味方まで被害が来るだろうが!!！」

ウォル「じゃあ、ぼくが出ます」

サスケ「待て。お前、スピンとかで飛ばそうとするなよ？」

ウォル「チツ」

サスケ「やる気だったか！」

アビス「はいはい！わたし、出る！」

リナリー「だったら私も出るわ」

サイ「ぼくも出ます」

はるのサ「サイも？」

サイ「ええ（微笑）」

ガルシア「なら、おれが出よう」

鳴滝「各チーム、出場者が決まりました！」

ワイズマン「第一試合はこのメンバーだ！」

第一試合：（『孤高』チーム）黒鋼&悟浄VS（『トリップ』チ  
ーム）ウォル&リナリー

鳴滝「そして変身するのは、これだ！」

黒鋼：天鬼 悟浄：ファム

ウォル：ゴーオングリーン リナリー：ゴーオンイエロー

黒鋼&悟浄「……………」

カナリア「まさかのチョイスッ」

フィリップ「女性ライダーとは……………興味深い」

瞳「不憫だわっ」

通「なむ」 合掌

クレフ「位置についてー」

タケル「て、なんでクレフさんがっ」

ツカサ「バイトらしいぞ？」

タケル「金は誰が払うんだよおおおお！？」

ユウマ「落ち着けっ」

クレフ「よーい……………スタート！」

タケル「ドンじゃないんだな！」

ツカサ「そこまで突っ込むなっ」

K (黒鋼) 天鬼「うおおおおおおお!!」  
G (悟浄) ファム「あああああああ!!」  
鳴滝「『孤高』 チーム2名、凄まじいスタートダッシュだー!」  
カナリア「二人とも、戻ってきて ー!!!」  
ラーフォルス「苦痛の叫びだな、あれは」

K 天鬼 & G ファム「うおおおおおおお!!」  
リナリー  
R ゴーオンイエロー「早すぎでしょ!？」  
ウォル  
U ゴーオングリーン「(ボソツ) やはりプラスマで」  
R ゴーオンイエロー「やっちゃだめよ、ウォル!」  
U ゴーオングリーン「……チツ」  
『トリップ』 チーム「……」 ナイス、リナリー!」「」「」  
火神「舌打ちした事には触れないんだなっ」

結果 1位：悟浄 2位：黒鋼 3位：リナリー 4位：ウォル

ワイズマン『ゴールがほぼ同じだったが、0.5秒差で『孤高』チ

ームの悟浄選手がゴール!』

黒鋼「はあっ……はあっ……!」

静雄「あー、お疲れ」

悟浄「もう、くたくた……ガクツ」

カナリア「悟浄おおおおお!?」

リナリー「ちょっと、ウォル!」

ウォル「何でしょうかー」 棒読み

ラビ「うわ、感情ないさっ」

アスレル「まあ、邪魔されたからな」

鳴滝「第二試合は、このメンバーだ!」

第二試合：(『孤高』チーム) 汐子&義成 VS (『トリップ』チ  
ーム) ユリハ&サイ

ワイズマン『そして変身は……これだ!』

汐子：R3 義成：ファイヤー4

ユリハ：セイザータリアス サイ：セイザードイル

ユリハ「わーい」

神田「すっげえ喜んでるな」

ガイア「まさかのグランセイザーかよっ!」

クレフ「位置についてー。よーい……ドンー!」  
タケル「訂正しやがったっ」  
コナミ「まあ、まあ」

ユリハ  
Yセイザータリアス「ペーン!」

Y（義成）ファイヤー4「エナジーも何も使っていないのに、速いだ  
と!」

Sセイザードイル「まあ、元々速いですから」

S (汐子) R3 「そうでしょうね……ですが」

Yファイヤー4 「マツハライン×2!」

SR3 「こちらにも負けられませんから(微笑)」

Sセイザーダイル 「アハハハ、そうですねー(微笑)」

はるのサ 「サイの奴〜!(怒)」

シバ 「落ち着きなさいよっ」

杜奈 「サイって、結構黒い奴か？」

Yセイザータリアス 「ファルコンボウ!」

全員 「……え?」

Yセイザータリアス (後ろを向きながら) バーニングウ……ファ  
ルコン!」 連射

Yファイヤー4 「っ!」 回避

SR3 「はっ!」 避ける

Sセイザーダイル 「すごいですね〜」 狙われていない

ガイア 「思いつきり、楽しんでるな!」

レナ 「でも、サイさんには当ててませんが」

ピカード 「そこはちゃんと分かっているからだっ」



結果 1位：ユリハ 2位：サイ 3位：義成 4位：汐子

鳴滝「後ろ歩きをしながら尚且つ攻撃をしたユリハ選手がゴール！  
その力をぜひディケイドを倒すために！！」

翼乃「……………」

ユリハ「てーん」

アレス「なんだ……………勝ったけど、殴りたいという衝動が起きているのは！」

サスケ「確かにな！」

ジェラルド「やめろ！ グレンに返り討ちに会うぞ！！」

サイ「アハハハ」

義成「すまない、翼乃隊長」

翼乃「いや、気にするな。まさかユリハが攻撃してくるとは想定外だったからな」

汐子「やはり反撃した方がよかったですね（黒微笑）」

翔太郎「それだけはやめてくれ！」

ワイズマン『第三試合のメンバーと変身は、こうなった！』

第三試合（『孤高』チーム）始&日向VS（『トリップ』チーム）アビス&ガルシア

始：シュリケンジャー 日向：000ラトラーター  
アビス：ガタツク ガルシア：ダークカブト

ジエノス「最後はスピード対決か」  
ガレル「いや、そうじゃないのが一人いるぞ!?!」  
一護「何も起こらなきゃいいけどよ……」

クレフ「位置について」

<sup>アビス</sup>  
Aガタツク「よし。クロックアップで勝っちゃうんだから!」  
H（日向）000ラトラーター「おいー！ 宣言する奴がいるか!」  
「？」

H(始)「シュリケンジャー」……」 指を鳴らす  
Gガルシア「ダークカブト」(なんだ、この殺気は!?)」

クレフ「よーい……ドンー!」  
タケル「一生そのまま統一してくれ!」  
エド「ちよつと落ち着こうか、タケルツ」

H「シュリケンジャー」……」 ゴール地点で天を指すポーズ  
G「ダークカブト」な!?!」  
A「ガタツク」まだ走ってないのに!」  
H「OOOラトラーター」てか、そのポーズはあああああ!」

奈津「おっと、これはすごい展開になったぞー! 宣言と同時に皆さんがゴール!」  
ワイズマン「クロックアップ機能がないはずなのになあ……」  
奈津「いやいや。皆さんって結構身体能力が翼乃ちゃんと似ているから」  
マーベラス「おい。なるなんたらはどうした?」  
通「あそこだけど?」

鳴滝らしき死体「」

翼乃「ふうー」 返り血がついている

タケル「何してんだ、あんたはあああああ!?!」

結果 1位：始 2位：ガルシア 3位：日向&アビス

タケル「何してんの？ 何してんの、あんたは!?!」

翼乃「気晴らし」

ツカサ「いや、明らかに反撃しただろ。第二試合での鳴滝馬鹿の言葉にっ」

悟浄「ぜってえ、ハイパークロックアップ以上だろっ」

カナリア「一体どうやってそんな力……」

始「ん？（黒笑）」

黒鋼「笑ってんじゃねえ!」

日向「……他のになればよかったのか?」

翔太郎「いや、あれでよかった。あんたは人間だから、ラトラータ  
ーでよかった!」

〜

鳴滝「（復活）第二競技は、ホーガン投げ！」

ワイズマン「各チーム2名ずつで、一番高く飛ばせた選手が勝ち！」

丈留「おい。ホーガン投げは、運動会ではしないぞ」

ガレル「いや。こつちじゃ、やるからよっ」

理歌「それはそれで楽しそうだけど」

ワイズマン「選手は変身なしで投げる事」

鳴滝「ただし！」『孤高』チームの、神翼乃・竜堂始・平和島静雄の3名は参加しない事！」

翼乃「……」

静雄「なんでだ？」

始「チツ」

黒鋼・悟浄「出られないからって、舌打ちするな！」  
カナリア「まあ。翼乃と始は身体能力が異常だし、静雄なんて馬鹿力だし……」

カナリア「て、それだったら向こうも同じじゃない!？」

鳴滝「意義は認めん！」

丈留「フラグたったな」

鳴滝と思われし物体「」

翼乃「ふっ」手に青竜刀

悟浄「始が貸したのか!？」

始「ハハハハ」

黒鋼「笑ってんじゃねえ!！」

カナリア「それでどうするのよ！ 向こうはすでに決まってるわよ！？」

翔太郎「はるのサクラとアレンか。ところでよ、イノセンス使用って有りなのか？」

翼乃「言っておくが。アレンはイノセンスを使わなくても、力あるぞ」

瞳「とりあえず、杜奈は無理ね。バスケット以外は的外れになるから」  
杜奈「言われる方は傷つくけどな！」

翼乃「……お前でも傷つくんだな」

杜奈「ひでえ隊長！」

義成「事実だ、諦めろ」

理歌「ねえ、翼乃」

翼乃「言っておくが、お前は出さないからな」

理歌「チッ」

大樹「なんでだ？」

翼乃「理歌が出ると……確実にデクトラスを当てるからだ」

理歌「確実じゃなくて、絶対よ」

翔太郎「言い換えても同じだろ！！」

デクトラス「俺は当てられてもいいが」

カナリア「馬鹿でしょ！ あんた馬鹿でしょ！？」

ワイズマン『各チームの代表選手は、この4人だ!』

『孤高』チーム：瞳、黒子  
『トリップ』チーム：アレン、はるのサクラ

火神「なんで黒子を出したんだ」

翼乃「本人に言え。テツちゃんが自分から出たいって言ってきたんだからよっ」

桜「ちなみに、ホーガン投げに使用するボールは競技でも使われている物だよ」

クレフ「それでは最初は、『トリップ』チームからお願いします」  
はるのサ「アレン、あんた先にやりなさいよ」  
アレン「別に構いませんが」 イノセンス発動

瞳「本当にやるのね……」



アレン「はあああああああああああー!!」

クレフ「いい投げっぷりですね」

タケル「距離測れよ!？」

クレフ「ああ、そうでした。えーと……107.99mです」

タケル「あんた視力いくつ!? てかこまかつ!」

ツカサ「お前、ツッコミ激しいぞ?」

カナリア「どういう身体してんのよ!？」

神田「もやし」

アレン「どういう意味で言ってるんですか、神田!」

神田「……もやし」

アレス「もういい!」

クレフ「次は、はるのサクラさん」

はるのサ「よし！」

瞳「今のうちに腕を回していきましょっ」

黒子「そうですね」

はるのサ「シャアアアアアアアンツなるおおおおおおおおお  
お!!(暑苦しいんだよ、バカツプル共があああああああ!!)  
」

クレフ「あ、アレンさんの記録を超えましたね」

タケル「どんだけー!?」

クレフ「121・8mです」

ジェノス「……何か副音が聞こえたが」  
サイガ・ラジュ「気のせいじゃあ〜」  
」

クレフ「続いては、『孤高』チームです」

瞳「私からやるけど?」

黒子「構いません」

瞳「………せいっ!」

クレフ「お、これはすごい」

ツカサ「どんくらいだ?」 ソルブレードを手に

タケルらしき物体「」

ガレル「ツカサアアアアアアア!?!」

クレフ「155mです」

翼乃「ボール投げは結構飛ぶ方だからな、瞳は」

敦司「確か頭上に投げた時って、1週間は落ちてこなかったけ？」

日向「どんだけだ!？」

クレフ「最後は、黒子君です」

黒子「分かりました」

はるのサ「そういえば。あいつって、なんでこの競技に参加したのよ?」

瞳「本人に聞いたら」

黒子「…はっ!」

クレフ「落ちるどころか、速度もそのままですネー」

一護「あー、けどよ。あの3人の記録、超してんだろ？」  
クレフ「はい。どこまで行きますかね」

鳴滝「（復活）お、おのれ〜！ ガハツ！？」 直撃

一護「おい、一周したんじゃっ」  
クレフ「そうみたいですネ」

ワイズマン『結果発表！ 測定不能の一周をした黒子選手の勝利！』

奈津「よって、『孤高』チームの勝ちー！」

ワイズマン『いやしかし、黒子選手のあの力はすごかったですねー』

奈津「黒子君、パス回し得意ですからねー」

黒子「イグナイトパスの要領で」

伊月「いや。それよりもすごかったと思うぞっ」

三和「つか、なんで出たんだ？」

黒子「……………」

ペシユ「どうしたのですの?」

黒子「ちょっと…………自分の力をいかせるかなって、思ったので」



レクチャー5：主役のいない運動会／火炎サイド暴走 前編（後書き）

「オマケページ」

木吉「なんか、なるまきっていう人、酷い目にあってるな」

相田「なるたじゃない？」

通「なるみずさん？」

静雄「なたき」

始「いや、たきなるだ」

翼乃「なるウォーター」

ミティーシア「なる……アリ？」

ツカサ「いろいろ言われてんな」

鳴滝「ぐずっ（泣）」

黒鋼・悟浄「「日頃の行いが悪いからな」」

カナリア「そうね……」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4451t/>

---

皆で超スピンオフ！

2011年10月8日23時12分発行